

A decorative network diagram composed of interconnected nodes and lines. The nodes are represented by various medical and scientific icons: a stethoscope (top right, red), a pill (top left, olive), a medicine bottle (top center, brown), a syringe (middle left, green), a plus sign (middle right, olive), a radiation symbol (bottom right, olive), a microscope (bottom left, green), a document with a plus sign (bottom center, green), a hospital bed (bottom right, green), and a heart rate monitor (bottom center, green). The lines connecting these nodes form a complex web, with some lines being straight and others curved, creating a sense of dynamic connectivity.

21世紀を翔る 医療スペシャリスト

Osaka University, Graduate School of Medicine, Division of Health Sciences

大阪大学医学部保健学科
大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻

2022

「医療は保健学から変わる」～自分の道を作ろう～



保健学専攻長
三善 英知

保健学科への受験を目指す皆様には本学科の歴史と特色について、ご紹介させていただきます。大阪大学医学部保健学科は、看護学専攻、放射線技術科学専攻、検査技術科学専攻の3専攻からなり、それぞれの分野のスペシャリストを目指して教育・研究に取り組んでいます。現在までに、4,000名以上の学生が卒業し、2,000名以上の修士号または博士号を持った学生を世の中に輩出しています。これらの歴史と数字は、阪大医学部保健学科が我が国の保健医療大学としてのまさにパイオニア的存在であり、この領域のトップランナーであることを如実に物語っています。超高齢社会を迎えた我が国にとって、医学もこれまでの形を変えてボーダレスな学問へと発展する必要があります。

私の好きな言葉は「道」です。人生の仕事は、自分の道を作ることです。医療のスペシャリストになる道は、決して平らではありません。常に新しいものを求め、自分の知識や技術を上書き保存する必要があります。そして何よりも、チーム力が重要です。チーム力向上のためには、単に医療の専門知識を学ぶだけでなく、幅広い視野をもつこと、多くの優れた友人、先輩、後輩を持つことです。またチーム医療は実地臨床だけでなく、研究の場においても同じです。特に大学院で充実した研究生生活を経験すると、色々なことに挑戦することで自分の可能性が確かめられ、さらに大きな夢への情熱が生まれていきます。大阪大学医学部保健学科には、学生の皆さんに最高の道を作るための環境があると自負しています。ぜひ自分にとって最高の「道」を作ることができるよう、私達と一緒に充実した日々を過ごしましょう。

沿革

- 1838年(天保 9年) 緒方洪庵によって、大阪大学医学部の源流となる適塾が設立
- 1876年(明治 9年) 大阪府病院にて岡沢貞一郎による産婆学の教授開始
- 1893年(明治26年) 大阪医学所の設立、助産師教育が始動
- 1898年(明治31年) 附属看護養成所が開設、看護師教育が始動
- 1967年(昭和42年) 保健学科の前身である大阪大学医療技術短期大学部が開学、看護科・診療放射線技術科・衛生技術科の3科を整備
- 1993年(平成 5年) 看護学専攻・放射線技術科学専攻・検査技術科学専攻からなる4年課程の医学部保健学科が創設
- 1998年(平成10年) 大阪大学大学院医学系研究科博士前期(修士)課程の設置
- 2000年(平成12年) 大阪大学大学院医学系研究科博士後期(修士)課程の設置





大阪大学医学部保健学科の特色

1. 高度医療専門職育成のトップランナー

日本は今、これまでどこの国も経験しなかった超高齢社会を迎えようとしています。また疾病構造は急性疾患から生活習慣病を中心とする慢性疾患へと大きく変化してきました。従来のように疾患の治療だけを対象とする時代は終わり、今、疾病の予防、健康の維持・増進をも推進できる医療専門職が求められてきています。また超高齢化・少子化による財政の逼迫は、限られた医療資源の中で、高度で複雑化した医療を安全・安心に効率よく行うことを求めています。そのためには、高度な看護・医療技術の専門職の育成が必要です。大阪大学は、日本で最初に、看護・医療技術の専門職を育成する3年制の医療技術短期大学部を設置し、さらに短期大学部を改組して4年制の医学部保健学科を開設しました。そして、平成10年には大学院医学系研究科保健学専攻を、そして平成15年には大学院重点化を行って講座を再編し、高度医療専門職育成のための教育・研究システムを整えました。

2. 高い医療・生命科学分野の教育・研究レベル

大阪大学は、遠く大阪の学塾である懐徳堂と適塾を源に、大阪町人の実証の精神、開放的な気風、しかも高度な思索を尊ぶ志を継承しています。そして「地域に生き世界に伸びる」をモットーに、地域に根ざした高度な教育・研究活動を推進してきています。中でも日本の医学教育の源である適塾の流れを汲むライフサイエンスの研究分野においては、大阪大学は世界のトップレベルにあり、大学のある千里丘陵は、近隣の国立循環器病センターや大阪バイオサイエンス研究所と合わせて、この分野のメッカとして発展してきました。さらに最近、近くに医薬基盤研究所などの研究施設を有する彩都（国際文化公園都市）が建設され、医療・生命科学分野の一大研究拠点として一層の飛躍が期待されています。

3. 新しい学際領域を担う多彩な人材と意欲ある学生

大阪大学では、この豊かな医療・生命科学分野の教育・研究環境と資産を活かし、21世紀の保健・医療・福祉を担う優秀な人材を育成するため、医学部に新しく保健学科を設置しました。医学・看護学・工学・薬学・理学などの様々な領域から集まった教員が、新しい学際領域である保健学という学問の教育・研究基盤を築こうと意欲に燃えて奮闘努力しています。そして、学生にも既存の知識を学習するだけでなく、これから大きく発展するこの新しい分野を自ら切り開いてみようという進取の気概を持った人材が集まってくれることを大いに期待しています。その1つの試みとして、既に社会で活躍している看護・医療技術の専門職の人たちに対して、さらに高度な教育・研究指導が受けられるようにする編入学制度や大学院の社会人特別選抜制度を導入しました。また、国際的にも医療技術協力が我が国に強く求められていますが、このような要望に応えるため、発展途上国の若い医療技術者を迎え入れ、大学・大学院で十分に教育し研究できるようにする留学生のための制度も整えています。

4. 21世紀の健康社会を担う指導的人材の育成

この新しい保健学（看護科学・医療技術科学）の分野では、指導的立場に立つ教育者・研究者が少なく、多数の人材育成が求められています。特にこの分野のトップランナーである大阪大学には大きな期待が寄せられており、多くの学生が大学院博士前期（修士）・後期（博士）課程に進学して、新たな学問分野の開拓に向けて日夜研究に励んでいます。そして、大阪大学医学部保健学科・大学院医学系研究科保健学専攻から巣立った人材には、それぞれの学問分野の確立を通じて、後に続く人材の育成に携わることも強く期待されています。

保健学科の構成および進路

看護学専攻

基礎看護学/母性看護学・助産学/小児看護学/成人看護学(急性期・緩和ケア)/成人看護学(慢性期)/
老年看護学/精神保健看護学/地域・在宅看護学



看護学は、個人や集団の健康を保持・増進し、病気の予防をするとともに、人々が人間としての尊厳を大切にしながら病気の回復に向けて日々の生活を送れるよう支援する、医学的な側面から人々の生活全体に関わる基本的な学問分野です。看護学を科学として追求し、高度な看護専門職としてリーダーシップが取れる人材、看護学を発展させる研究・教育者の養成を目指しています。

※看護学専攻では単位取得によって、養護教諭一種免許状の資格を申請することが可能です。

入学定員	3年次編入定員	取得学位	国家試験受験資格
80人	10人	学士 (看護学)	看護師

放射線技術科学専攻

医用物理学／医用工学

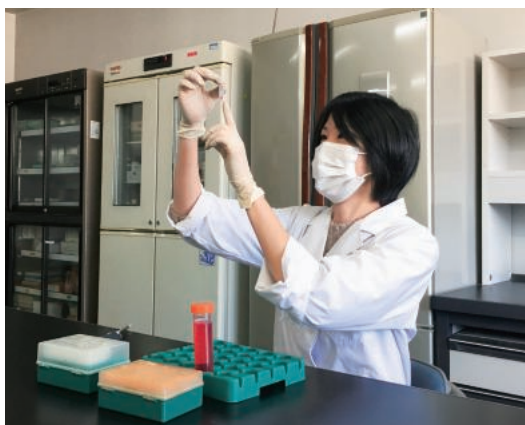


医療の場で放射線を使って、画像情報を得たり、治療に役立てたりする際の技術科学を学ぶところです。X線の他、光、電波、超音波などを扱い、それらと生体との相互作用を、医療に適用する生体医用工学の最新技術を学びます。放射線技術科学専攻では、幅広い知識と視野をもつ医療技術者、研究者の育成を目指しています。最新の医療機器、技術の開発には、人体について深く洞察することのみならず、人工知能AIや放射線情報科学など新しいテクノロジーの理解がますます重要になってきます。人体や保健・医療に深い興味をもち、新しい医療技術科学の推進に積極的に取り組む意欲のある人を求めています。

入学定員	3年次編入定員	取得学位	国家試験受験資格
40人	5人	学士 (保健衛生学)	診療放射線技師

検査技術科学専攻

基礎生体情報学／病態生体情報学



検査技術科学専攻では人が発する無尽蔵の信号の中から病気の診断と治療に役立つ情報を正確に採取する理論と技術についての研究・教育が行われています。

近年検査技術は自動化学分析、DNA(遺伝子)診断、超音波分析、MRI(核磁気共鳴)分析など、その発展は目を見張るばかりです。

このような技術革新を可能にし、さらに新しい検査技術を生み出す源は、実は自然科学そのものの中にあります。

入学定員	3年次編入定員	取得学位	国家試験受験資格
40人	5人	学士 (保健衛生学)	臨床検査技師

卒業生の進路(学部・博士前期(修士)課程)

病院・保健所

大阪大学医学部附属病院
東京大学医学部附属病院
東京慈恵会医科大学附属病院
国立循環器病研究センター
大阪府立病院機構
堺市立病院機構
西宮市立中央病院
福山市民病院
虎ノ門病院
住友病院

病院・保健所以外

株式会社T-ボンド
株式会社セブン・イレブン・ジャパン

進学

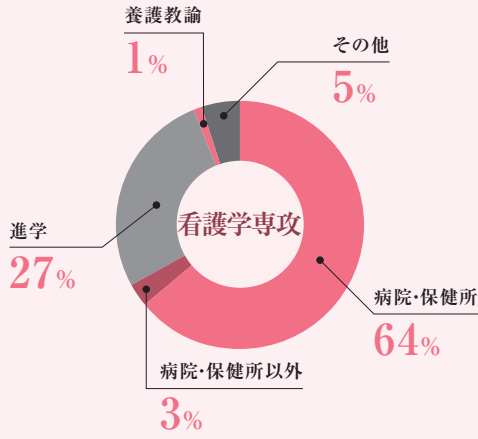
大阪大学大学院
畿央大学
県立広島大学
産業医科大学大学院
神戸市看護大学大学院
聖バルナバ助産師学院

養護教諭

小学校教諭

その他

就職準備
公務員・教員採用試験受験予定



病院・保健所

大阪大学医学部附属病院
東京大学医学部附属病院
京都大学医学部附属病院
国立病院機構三重中央医療センター
大阪府立病院機構
地域医療機能推進機構大阪病院
兵庫県立淡路医療センター
神戸市民病院機構
国家公務員共済組合連合会
済生会吹田病院
中山大学附属医院(中華人民共和国)
愛染橋病院
医療法人 英仁会 大阪プレストクリニック
保健所・保健センター
(神戸市、横浜市、西宮市、吹田市、枚方市)

病院・保健所以外

教員(大谷中学高等学校)
株式会社エヌ・ティ・ティ・データ
株式会社ビーエヌエス
株式会社オン

大学教員

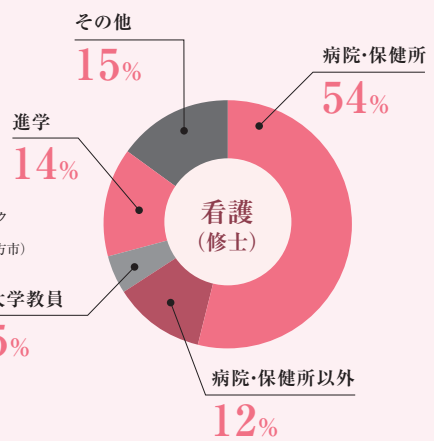
安田女子大学
芦屋学園

進学

大阪大学大学院

その他

就職準備



卒業生の進路(学部・博士前期(修士)課程)

病院・保健所

大阪大学医学部附属病院
大阪府立病院機構
大阪市立大学附属病院
兵庫医科大学病院
関西医科大学附属病院
東京医科大学附属病院
金沢医科大学附属病院
名古屋第二赤十字病院
地方独立行政法人神戸市民病院機構
箕面市立病院
医療法人 警和会 大阪警察病院
医学研究所 北野病院
大阪回生病院
社会医療法人 製鉄記念八幡病院
医療法人 仁泉会 MIクリニック
社会医療法人 高清水
社会福祉法人 京都社会事業財団
京都桂病院

病院・保健所以外

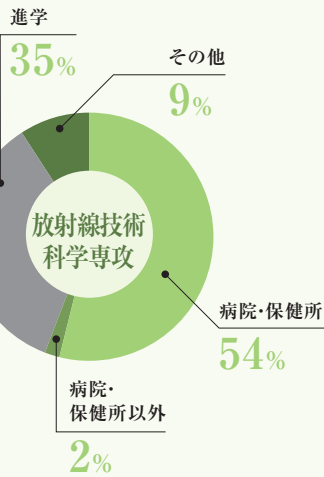
日本ライフライン株式会社

進学

大阪大学大学院
京都大学大学院

その他

資格取得・就職準備



病院・保健所

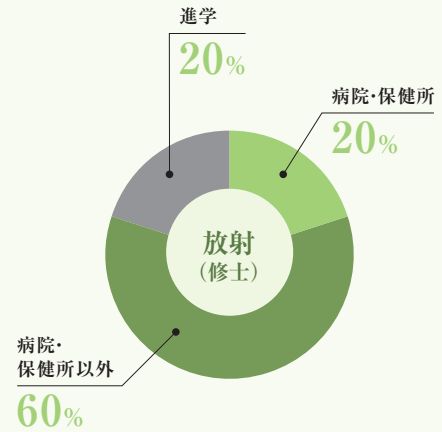
大阪府立病院機構
大阪市民病院機構
高清水高井病院

病院・保健所以外

教員(京都市)
株式会社エヌ・ティ・ティ・データ
株式会社野村総合研究所
株式会社リクルート
株式会社システム計画研究所
富士フイルムヘルスケア株式会社
株式会社マイクロン
株式会社千代田テクノ
新通教育(中華人民共和国)

進学

大阪大学大学院



卒業生の進路(学部・博士前期(修士)課程)

病院・保健所

大阪大学医学部附属病院
兵庫医科大学病院
住友病院

病院・保健所以外

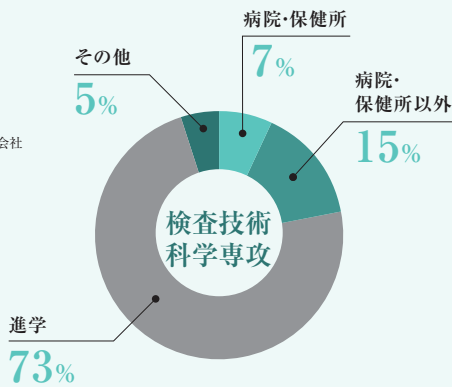
科学捜査研究所
テルモ株式会社
シミックヘルスケア・インスティテュート株式会社
iCOM技研株式会社
国立大学法人 東京大学
株式会社常光

進学

大阪大学大学院
東京医科歯科大学大学院

その他

他学部進学準備
資格取得・就職準備



病院・保健所

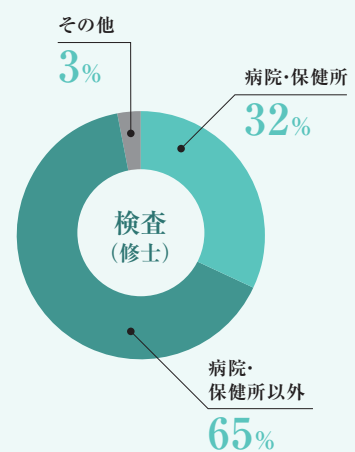
大阪大学医学部附属病院
京都大学医学部附属病院
滋賀医科大学附属病院
大阪府立病院機構
医療法人 神甲会 隈病院

病院・保健所以外

塩野義製薬株式会社
武田薬品工業株式会社
中外製薬株式会社
小野薬品工業株式会社
シスメックス株式会社
アークレイ株式会社
プロクター・アンド・ギャンブル・ジャパン株式会社
サイネックス・ヘルス・クリニカル株式会社
シミックヘルスケア・インスティテュート株式会社
グリーノ食品株式会社
NECソリューションイノベータ株式会社
楽天株式会社
富士フイルムシステムズ株式会社
PHCホールディングス株式会社
SCSK株式会社
IQVIAサービシーズ・ジャパン株式会社
帝人株式会社
日本生命保険相互会社

その他

就職準備



看護学専攻



基礎看護学/母性看護学・助産学/小児看護学/成人看護学(急性期・緩和ケア,周手術期管理学)/
成人看護学(慢性期)/老年看護学/精神保健看護学/地域・在宅看護学



人を多面的に理解するところから看護は始まります

看護は個人や集団の健康の維持・増進・回復を目的にし、人々がよりよく生きる可能性を最大限に発揮できるよう援助するものです。それには、看護の対象である個人・家族や集団を充分に知り、健康と社会の関係を理解し、医学に関する深い学識を基盤に、看護に必要な知識・技術・態度を修得し、将来の実践と研究に役立たせます。

そのため、専門の核心である看護学とともに、人文科学、社会科学、自然科学、外国語、健康科学、医学などを関連科目として学び、幅広い知識と教養、豊かな人間性、高い倫理観を身につけます。

とりわけ将来の社会環境の変化に柔軟に対応でき、常に新しいものを生み出す自己開発能力を育成するため、看護学を科学として追求していくことに教育の主眼が置かれています。

卒業後は、各医療施設、保健行政機関、企業健康部門さらに一般企業において看護学の知識を基に多様な活躍をしています。また大学院に進学して看護学や保健学の研究に取り組み、研究者や高度臨床家を目指すことが期待されています。2018年度から大学院での保健師・助産師教育が始まりました。また、2020年度から遺伝カウンセリングコースが始まりました。

本学の特徴

- 我が国の看護系大学の中でも最も優れた先端的保健学・看護学教授陣が揃っています
- 国家試験合格率はトップクラス、就職・進学ともに高いレベルのキャリア形成が可能な実力ある専攻です
- 看護師の国家試験受験資格が得られるほか、選択により養護教諭一種免許が取得できます
- 保健師、助産師の先進的な教育を大学院で行っており、公衆衛生看護学、助産学を牽引するリーダー的大学です
- 従来の「看護」を打ち破る研究成果を続々と発表している活気のある面白い大学です



4年間のスケジュール

1年～2年前期

- 新入生研修では、同級生、教員、先輩と親しくなれます。
- 外国語・化学・生物学・統計学などの一般教養を受講します。
- 2年前期は基礎看護技術の学内演習が始まります。



2年後期～3年前期

- 吹田キャンパスが学生生活の中心になります。
- 専門的な授業が始まり、短期間の臨地実習が始まります。
- 講義だけではなく主体的なグループ学習が行われます。



3年後期～4年前期

- 集中的な学内演習のあと、本格的な臨地実習が始まります。
- 臨地実習は、病院や老人保健施設、訪問看護ステーションなどで行います。
- 研究室の配属が決まり、特別研究(卒業研究)も始まります。



4年後期

- 卒業研究が中心になります。この間に就職試験や大学院の入学試験があります。
- 2月末に看護師の国家試験があります。そして卒業研究の発表、卒業です。



基礎看護学

基礎看護学では、人の健康支援の基礎となる看護の概念や理論などの知識、看護実践の基盤となる技術、生活習慣の予防や多職種連携についての教育と研究を行っています。年代や疾病特性を限定せずに、多方面からの情報分析を通して、よりよいケアシステムのあり方、新しい看護技術の開発、質改善や人材育成支援に関する研究を進めています。より充実した看護ケアを提供する未来を見据えて、幅広い視点から人々の健康に貢献する看護の可能性を追求しています。



教員名・職名 井上智子(教授) 辻本朋美(助教)
樺山 舞(教授) 木戸倫子(助教)
内海桃絵(准教授)

小児看護学

小児看護学領域では、発達過程にある生前から青年、そして若年成人各期にある子どもと家族が、その人と家族らしさを社会との相互作用の中で守り育てて行くことへ寄与する看護を追究しています。健康増進から重い病気や障害を抱える子までの、そして自宅から地域、三次医療機関等あらゆる場での、子どもと家族の心身と精神を支えていく全人・包括ケアの基礎を培います。また、多職種(看護ならびに他職種)との連携の中で、子どもと家族主体のともにある看護を実践・推進していくための基礎を培います。



教員名・職名 酒井規夫(教授) 菊池良太(講師)
山崎あけみ(教授) 川原 妙(助教)

成人看護学(慢性期)

慢性疾患看護学に関する教育・研究を行っています。青年期、壮年期、向老期といった成人各期にある慢性疾患をもつ人とその家族への看護技術、セルフケア支援技術に関する研究、看護の質向上のための看護実践能力の育成やケアシステムの開発に関する研究を行っています。その中でも慢性疾患とともに生きてきたその人の文化的背景や経験を尊重し、過去からつながる今、そして、未来を支える看護を現場の看護師と協働して構築していくことを大事にしています。



教員名・職名 清水安子(教授) 高橋 慧(助教)

精神保健看護学

精神保健看護学は、すべての人のこころの健康を支え維持することを探求する領域です。また、こころの病を持った人がより良い生き方を見出し、再び病を持つことなく社会で暮らし続けることを支援します。人々が持てる力を最大限発揮し、社会とのつながりの中で暮らすことを支えるために、看護職は看護の知識と技術を使って、多くのさまざまな職種や地域の人々と協力をします。精神保健看護分野におけるそのような実践家を育む教育、そしてその教育を支える研究を推進することで、社会へ貢献しようと取り組んでいます。



教員名・職名 武用百子(教授) 梶原友美(助教)
大達 亮(助教)

母性看護学・助産学

母性看護学・助産学領域では、ライフステージ各期の女性の健康課題、妊孕世代および次世代の健康確保のためのケアを探究するとともに、国内外の母子保健の向上に寄与する看護師、助産師の教育を行っています。また、女性がよりよい環境で子どもを産み育てるために必要な周産期医療の在り方、母子保健対策、男女共同参画社会に向けての政策の在り方・支援策にも取り組んでいます。



教員名・職名 遠藤誠之(教授) 白石三恵(准教授)
松崎政代(教授) 木内佳織(助教)
渡邊浩子(教授) 堀口範奈(助教)

成人看護学(急性期・緩和ケア学、周手術期管理学)

診断・治療期から終末期にわたり、成人期を対象とした医療や看護に関する教育と研究を行っています。近年の医療のめざましい進歩により、ますます多様化する患者のニーズを的確に捉え、エビデンスにもとづく看護を実践できる医療者が求められています。当領域では、そうした臨床現場に生かせる成果を創出できるよう、がん患者・家族に対する看護、術前術後管理、臓器移植における支援、緩和ケア、エンドオブライフケアの探求に力を入れ取り組んでいます。



教員名・職名 荒尾晴恵(教授) 山本瀬奈(講師)
上野高義(教授) 田村沙織(助教)

老年看護学

日本は2004年以降高齢化率世界一となり今後も高齢社会にどう向き合っていくかのトッパンナーとして世界的に期待されています。進学・就職・結婚・出産・育児・子の教育・子の独立・第2の人生…そして最期、このようなライフステージを経てきた人たちの生きざまをどのように支えていくかを考えていくのが老年看護学です。皆さんは、どのように生きたいですか?一緒に考えていきましょう。



教員名・職名 竹屋 泰(教授) 梶屋絵理子(助教)
山川みやえ(准教授)

地域・在宅看護学

地域・在宅看護学領域では、地域で暮らすすべてのライフステージ、すべての健康状態の人々が、自らの能力を最大限に発揮し、自立した生活を送ることができる地域社会の発展に寄与する教育・研究を行っています。個人・家族、集団の保健医療福祉について予防的観点から体系化し、さらに効果的な支援方法や施策化、地域包括ケアシステムの構築について探求します。公衆衛生看護、学校保健、産業保健、在宅看護のパイオニアとして国際的に活躍できる教育者・研究者・科学者の育成を目指しています。



教員名・職名 岡本玲子(教授) 蔭山正子(教授・高専共創研究院兼任)
神出 計(教授) 小出恵子(准教授)
小西かおる(教授) 田中美帆(助教)
呉代華容(助教)

放射線技術科学専攻



医用物理/医用工学



放射線技術・科学,医用画像学を極め未来医療を創造する

放射線技術科学とは

当専攻では医療の場で放射線を人体に照射し、取得した画像情報をもとに、診断・治療の指針を提供する医療技術科学を学ぶところです。本専攻には放射線（X線）のほかに、核医学、超音波や磁気、光を使った画像診断科学、画像医学、放射線腫瘍学、画像情報解析学、薬理学および放射線防護学など多種の放射線技術学において第一線で活躍中の研究者がそろっており、高齢化社会において求められるヒトにやさしい先端画像診断学・画像応用治療学をわかりやすく教授します。

修得科目と病院実習

1年次は総合大学としての特色を生かし、語学を含めた「共通教育科目」と物理、化学などの「専門基礎教育科目」を受講します。2年次からは、基礎医学と共に放射線科学の基礎を講義、演習、実習を通じて学びます。3年次前期では、「専門科目」を学び、医療における放射線技術の利用に関し学びます。また、3年次後期には診療放射線技師教育において重要な「病院実習」が始まります。大阪大学医学部附属病院の最先端医療機器を使って、画像診断学、放射線治療学に関して約半年にわたり学びます。さらに4年次前期には「臨床医学特別実習」として病院薬剤部、臨床検査部など他部門の医療現場でチーム医療に関して学びます。

特別（卒業）研究、就職活動および大学院進学

当専攻には様々な研究室があり、教授・准教授・助教が一体となって研究に邁進しています。4年次の学生は、希望に応じてこれらの研究室に分かれて配属され、特別研究を行います。各研究室において学生はX線、超音波、核医学、磁気、光（レーザー）等を利用した最先端の研究に参加し、研究開発の面白さと困難さを体験します。また、この研究成果をまとめ、4年次の秋に研究発表会にて発表します。

この特別研究と並行して就職活動を行い、さらに卒業直前に控えた診療放射線技師国家試験にむけて受験勉強に励みます。この一年は大変忙しいですが、学部4年間の中でも最も充実した時期といえます。また、多くの学生が大学院に進学し、研究を継続し、学会発表、論文執筆など研究者としてのスキルを学びます。

4年間のスケジュール

1年～2年前期

新入生歓迎会などのイベントがあります。共通教育科目と専門基礎教育科目を他学部、他学科との学生と一緒に豊中キャンパスで学びます。



2年後期～3年前期

吹田キャンパスの保健学科学舎を中心として専門科目の講義と実習が行われます。専門教育系科目の講義が始まります。



3年後期

大阪大学医学部附属病院において、実際の臨床現場での実習が行われます。診療放射線技師や教員から指導を受けます。



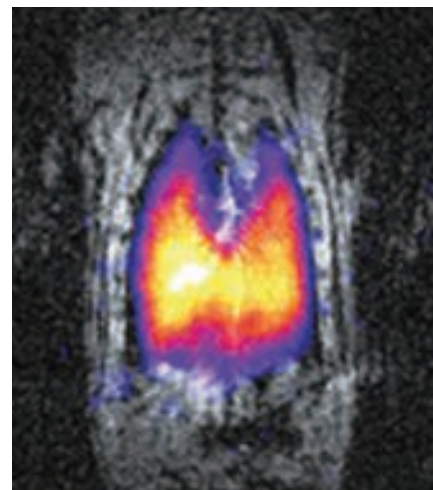
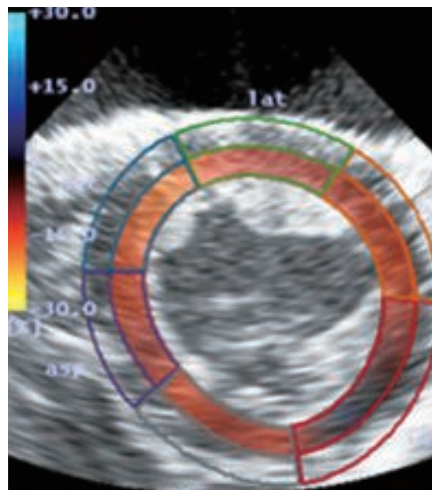
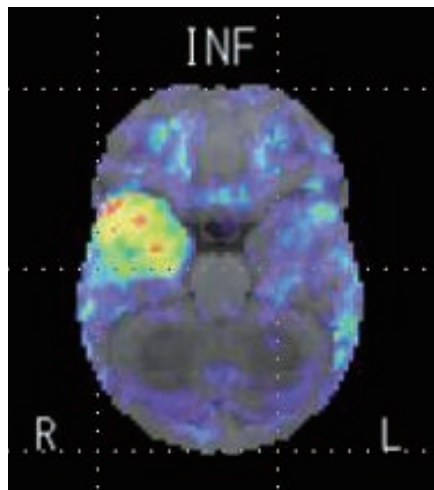
4年

卒業研究中心の生活です。このあいだに就職試験、大学院入試があります。卒業研究発表の後、2月後半には国家試験が実施されます。



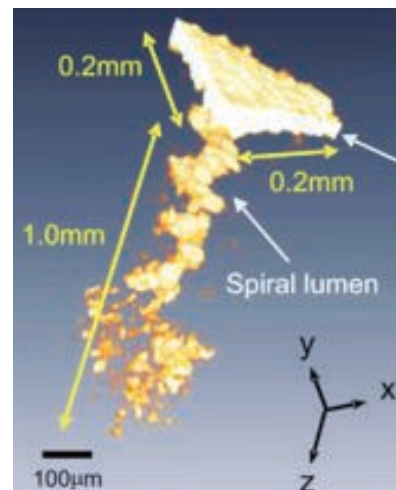
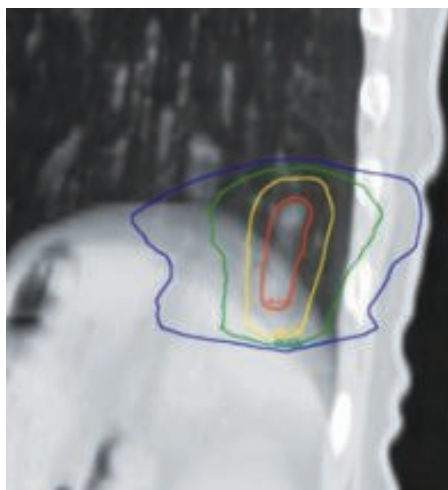
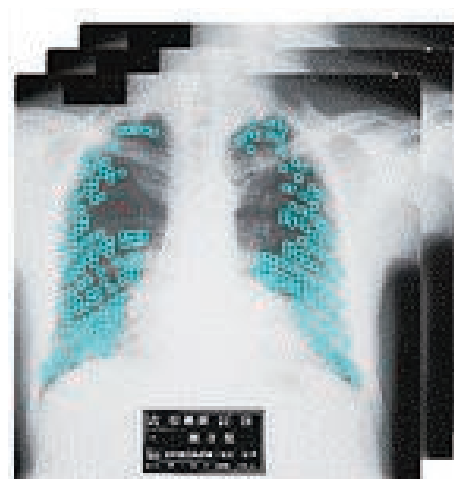
医用物理学

本領域は、国立大学法人としてはわが国で最も早く創設されました。その研究内容は、X線、超音波、放射線同位元素による医用画像の形成、分子イメージング、放射線治療、放射線の安全管理、医用情報学と広がっています。そして、その共通目標は、今後さらに医用物理学を発展させていくことであり、スタッフ全員が自負と気概に燃えて日夜研鑽を積んでいます。



医用工学

疾病の早期診断と治療には、従来の放射線技術・機器に加え、エレクトロニクスや情報科学の最先端技術を取り入れた新たな診断・治療システムの構築が必要です。本領域は、放射線以外にも核磁気共鳴、光学、画像情報解析学、医療システム学、放射線治療物理学などの分野で構成されており、新たな医用工学の学問体系の確立に日々取り組んでいます。



検査技術科学専攻

基礎生体情報学／病態生体情報学



生体情報を捕え診断や治療に役立てます

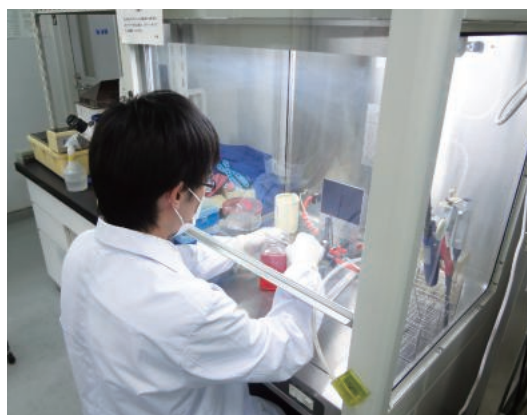
検査技術科学は新しい医療科学の担い手として登場し、歴史的にも若々しく、かつ発展性と将来性に富んだ分野です。検査技術科学の基本は物理的（電気磁気、超音波、核磁気共鳴）、化学的（血液生化学、免疫）、形態的（病理組織学、細胞診）、分子生物学的（DNA、RNAの分析）技術を駆使して人体からの情報を正確に受信し、これを分析して疾患発生の予知と予防、疾患の診断、治療法の効果判定、将来の状況の予測に役立てます。

疾患についての知識はもとより、病態情報の基礎、その正確性、精密性の保守並びに情報処理についての研究が重要です。

検査技術科学のカバーする分野はこんなに広く、学生各人の適性にに応じてその専門を選択することができます。またこの分野は現在非常な発展をみせているバイオサイエンスと重なっていることが特徴です。

検査技術科学を学ぶことにより以下のような将来への道が開けます

- 病院の検査部、検査センターに勤務し、検査を行うとともに、現場において新しい検査法の開発やデータの処理に取り組む。
- 製薬企業研究所において、疾患、検査法、実験動物を熟知した技術者として活躍する。
- 食品製造業等を含む健康関連産業領域における研究・開発を担う。
- 検査機器メーカー研究所で、新しい測定・診断機器を開発する技術者として活躍する。
- バイオサイエンスを実践する大学研究機関で活躍する。



4年間のスケジュール

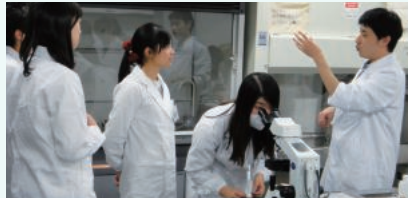
1年～2年前期

- 英語・第2外国語(独・仏など)・物理・化学・数学などの一般教養の講義が行われます。
- 1年4月にはクラブのオリエンテーションがあり、保健学科にも体育会クラブやサークルに所属し、4年間続けて頑張る人もたくさんいます。
- 4月にはクラス初のイベントとして、1泊2日の新入生歓迎合宿があります。ここで初めて全員の名前を覚えます。



2年後期～3年

- 吹田キャンパスへ移動。1人暮らしの人は慎重に家を決めておくのがよいでしょう。実習が始まり、ようやく専門的な授業も実施されます、はじめての採血も…
- 解剖実習もあり、教科書の写真だけではなく、実際の目で確かめながらの講義が受けられます。
- 3年夏休み：大阪府下の関連病院(大阪国際がんセンター等)で臨床検査の実習を受け、現場の雰囲気を初めて味わいます。



4年

- 4年前期：各研究室に配属されます。さらに細かく専門分野に分かれて、1人1人半年間研究を行い、9月にはその研究成果を発表し、卒業論文としてまとめます。同時に阪大病院の病棟において臨床医学特別実習が行われます。実際に患者さんに接して検査の重要性をより深く学びます。
- 4年後期：阪大病院の臨床検査部でおよそ3ヶ月にわたり実習が行われます。学校の講義とは異なった様々な事柄を習得できます。4年間の総まとめの卒業試験を経て、臨床検査技師国家試験に臨みます。



基礎生体情報学

21世紀の臨床検査学は病気の診断や治療だけでなく、予測することを可能にするでしょう。そのためには分子生物学・分子微生物学、バイオメディシン、脳科学など自然科学領域の最先端技術を駆使する必要があります。細胞が生命情報を発し感受するメカニズムについて研究し、新しい科学を創造するのが基礎生体情報学です。

病態生体情報学

病態生体情報学は、病気を誘引する異常を、個体レベル、臓器レベル、細胞レベル、分子レベル、更には遺伝子レベルで解析することによって、病院を解明し、病気を正確に診断し、新しい治療技術を開発するために重要な生体情報に関する最先端の研究を行っているところです。

1 生体情報を捕らえ、診断・治療に役立てる学問

検査技術科学専攻では人が発する無尽蔵の信号の中から病気の診断と治療に役立つ情報を正確に採取する理論と技術についての研究・教育が行われています。近年検査技術は自動化学分析、DNA(遺伝子)診断、超音波分析、MRI(核磁気共鳴)分析など、その発展は目を見張るばかりです。このような技術革新を可能にし、さらに新しい検査技術を生み出す源は、実は自然科学そのものの中にあります。

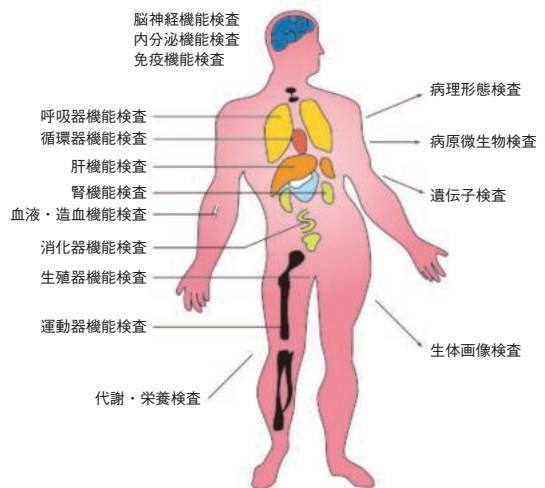
2 医学と臨床検査学を学び、生体情報発信機構を研究

生体から情報を得るにはまず生体そのものを理解することが必要です。さらにそれを診断に生かすためには病気についても熟知しておく必要があります。そこで2年次からの専門教育では生体のはたらきとしくみ、病気のメカニズムを徹底的に学習します。また新しい検査法を習得し、さらにそれを開発するうえで必要な物理・化学から分子生物学までの広い知覚基盤の教育も並行して行われています。3年次になると実際の臨床検査の原理と方法について履修し、さらに個々の臨床検査データの意義を理解するために臨床医学や検査診断法についても学びます。4年次では大阪大学医学部附属病院臨床検査部と診療科(病棟、外来)において実習を行います。ここで最新の検査技術の実際を習得し、臨床の現場で臨床検査がどのように活用されているかを学びます。さらに4年次の前期には、検査技術科学の基盤をなす生体内情報発信機構を深く研究するために、各研究室の教員の指導のもとにそれぞれの課題を定めて特別研究に従事し、先端的研究の一翼を担うこととなります。この研究は将来の教育者・研究者への道を方向づける契機にもなるでしょう。そのため、密度の濃いカリキュラムですが、それに向かって行くファイトのあふれる人材の参加を大いに期待しています。

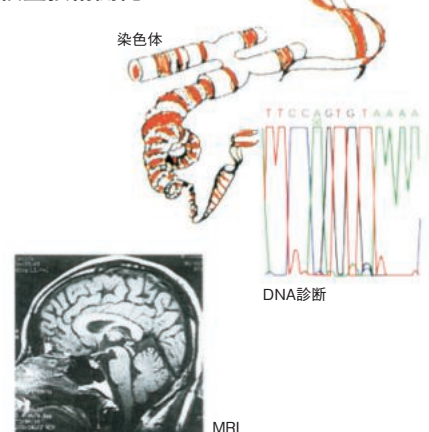
3 今後需要が増大する幅広い活躍分野

本専攻の卒業生は臨床検査技師の資格を取得し医療機関で力を発揮することができます。臨床検査技師の資格は比較的新しく制度化されたもので、この資格を取得すれば直接患者に接触する検査や、採血などの医療行為を行うことができます。さらに最近では実施できる検査業務が徐々に拡大されており、従来の臨床検査に加えて核磁気共鳴画像(MRI)診断や超音波(エコー)診断および眼底写真撮影なども実施できるようになっています。卒業生はまた医療・バイオサイエンス関係の企業や研究所で活躍することもできます。さらに大学院に進学して生体情報学や先端医療技術の専門家、教育・研究者を目指することができます。

生体情報分析



先端検査技術開発



看護学専攻 多彩・独創的な大学院

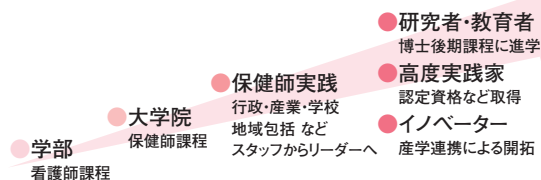
大学院保健学専攻では、ここだけでしか学べない多彩・独創的なテーマと研究マインドに溢れる教員が、みなさんを待っています。博士前期課程(2年)では、保健・医療・福祉のさまざまな課題を患者の立場や社会・自然環境・文化等から理解するとともに、様々な視点から問題解決をデザインできる力を養います。博士後期課程(3年)では、独創的な研究をデザインし遂行する能力、研究組織に参加し牽引できる力を養います。本専攻の大学院生は、臨床経験の有無を問わず、工学部など医療系以外の学部出身や外国籍など多様性に富んでいます。学習では、図書館をはじめ世界に誇る大阪大学の教育資源が活用でき、研究に必要な医学部・医学系研究科をはじめ他学部・他研究科等から提供される科目が履修できます。保健師・助産師教育コースやがん看護の専門家コースもあります。研究論文の作成では、研究遂行力、発表能力の鍛錬だけでなく、科学者であるとともに保健医療人にとって必要な、高い倫理性と強い責任感、課題遂行力を養います。

大学院修了後は、医療界のみならず産業界・行政からも、保健医療福祉分野において幅広い教養を持ち、柔軟な吸収力とやさしさを持つ医療人として、国際的な貢献も期待され、活躍しています。

学部教育	大学院教育：統合保健看護科学分野 2021年4月在籍数(博士前期課程/後期課程)	教授名：研究室名
■基礎看護学 ■地域・在宅看護学	総合ヘルス プロモーション科学 (27/28)	井上智子:看護管理学、樺山 舞:包括看護科学、 岡本玲子*:産山正子:公衆衛生看護学、神出 計*:ヘルスプロモーション・システム科学、 小西かおる*:地域ヘルスケアシステム科学 *保健師教育コース兼任
■小児看護学 ■母性看護学 ■助産学	生命育成看護科学 (31/33)	松崎政代*:助産学・リプロダクティブヘルス、遠藤誠之*:母性胎児科学、 渡邊浩子*:ウイメンズヘルス科学、山崎あけみ:小児・家族看護学、 酒井規夫*:成育小児科学、ツインリサーチセンターとの共同研究 **助産師教育コース兼任 ***遺伝カウンセリングコース兼任
■成人看護学 ■老年看護学 ■精神保健看護学	看護実践開発科学 (16/30)	清水安子:慢性疾患看護学、上野高義:周手術期管理学、 竹屋 泰:老年看護学、武用百子:精神保健看護学、 荒尾晴恵:急性期・緩和ケア学、高度がん看護専門看護師コース
	連携大学院領域	先進医療・臨床試験科学:国立循環病研究センター、 がん統計・インフォマティクス:国立がん研究センター、 多職種チーム医療に基づくがん看護学:静岡県立静岡がんセンター 等

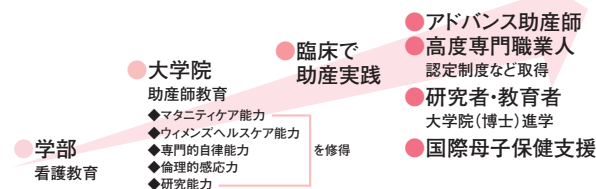
保健師教育コース

保健師は、より健康なコミュニティ、より安全・安心な社会を構築することを目的に、社会的公正を規範として、あらゆるライフステージの、あらゆる健康レベルの人々と、人々を取り巻くさまざまな環境に働きかけます。学部の4年間の学びを土台にして、大学院において集団や組織、コミュニティを対象とする公衆衛生看護技術、研究能力とともに習得します。修了後は、行政機関や産業保健、学校保健、地域包括ケアなど多様な現場で活躍することができます。さらに、研究者・教育者あるいは高度実践家、起業家などの選択肢を開拓することもできます。人々の健康、社会の安寧を支えるスペシャリストに、ぜひあなたもチャレンジしてください。



助産師教育コース

助産師には女性の健康、性と生殖に関する健康、そして育児を含む女性のライフステージに対応した課題について支援する役割が期待されています。助産師教育コースでは助産学・母子保健学における専門分野を広く深く探求し、日本の将来を担う母子と家族の健康増進に有益な指導の人材を、リサーチマインドと高度な助産の専門的自律能力を持ったグローバルに活躍できる教育・研究者を育成します。アドバンス助産師、高度専門職業人として臨床で看護支援を極める道、研究者・教育者を目指して大学院博士後期課程に進学し、研究能力を磨く道、海外に羽ばたき、国際母子保健活動に従事する道など、多種多様なキャリアを形成することが可能です。



高度がん看護専門看護師コース

高度がん看護専門看護師コースは、がん看護専門看護師の資格取得にむけた日本看護系大学協議会の認定した教育コースとなっています。がん看護専門看護師は、がん診療連携拠点病院や地域において、実践、研究、教育、相談、調整、倫理調整といった6つの役割を担う高度ながん看護の実践者となることが期待されています。また、臨床現場でがん看護専門看護師として継続的にスキルアップできるだけでなく、大学院博士後期課程への進学によって、研究や教育能力の向上を図り、さらに教育・研究の現場で活躍するなどキャリア形成の幅も広がりをみせています。



遺伝カウンセリングコース

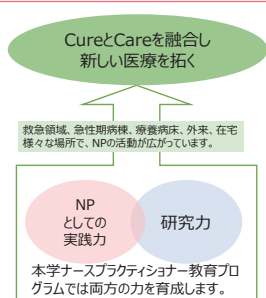
現代医療になくてはならない臨床遺伝に中心的に対応することができ、臨床遺伝専門医やその他の医療職のメンバーと協力しながら、真に必要な医療専門職の育成を実現することを目標に設置しました。



ナースプラクティショナー教育コース

少子高齢化が進む中、医療ニーズも変化し、看護師に期待される役割は拡大・多様化しており、ケアとケアを融合できる高度な看護実践力をもつナースプラクティショナー(NP)が活躍し始めています。

本学でも2022年度よりナースプラクティショナー教育コースを開設し、NPとしての実践力と大阪大学だからこそその研究力を身につけられる教育内容を提供し、これからの新しい医療を担う人材を育成します。



放射線技術科学専攻 教員名・専門・研究テーマ

医用物理学

名 前	専 門	研究テーマ
福地 一樹 (教授)	■核医学 ■分子イメージング	核医学画像分析による病態診断と脳、心臓の生化学情報を診断・治療に応用する研究を行っています。
小山内 実 (教授)	■神経生理学 ■脳機能イメージング ■医用生体工学	光学イメージングやMRIに加えて、電気生理学、シミュレーションなども駆使し、細胞レベルから個体レベルまでのマルチスケール・マルチモーダル研究を展開し、脳機能の解明を目指しています。また、イメージング法の開発や、イメージング装置の開発も行っております。
西尾 禎治 (教授)	■医学物理学 ■粒子線治療物理学	放射線治療に関する医学物理学研究を幅広く実施しています。特に陽子線治療や重粒子線治療の高精度化について、高度な放射線計測技術やデータ解析技術、シミュレーション技術等を駆使した最先端の照射領域可視化システムの研究開発などを中心に行っています。また、それらの研究教育を通して、高い研究開発能力を持つ医学物理士の育成を目指しております。
沼崎 穂高 (准教授)	■医療情報学 ■診療放射線技術学 ■放射線腫瘍学	放射線に関わる情報を取り扱った研究を行っています。放射線診断分野では単純X線画像、CT画像の画像解析、放射線治療分野では全国的な放射線治療症例情報の収集と解析を行っています。
小泉 雅彦 (教授)	■放射線治療学 ■放射線腫瘍学 ■放射線生物学	がんの放射線治療の基礎から臨床応用まで幅広く研究します。がんの腫瘍学を基礎に、生物への放射線の影響を解明します。高精度放射線治療の基礎となる医学物理学とも融合させて、新しい放射線治療生物学を展開します。

医用工学

名 前	専 門	研究テーマ
田中 壽 (教授)	■画像診断学	画像による全身の病理、生理現象の解明を目指しています。その中でも磁気共鳴画像を主な方法として中枢神経系(特に脳血流と脳脊髄液)と筋骨格系(筋肉組成)の研究を行っています。
高橋 洋人 (准教授)	■神経放射線医学	診療画像、特に磁気共鳴画像(MRI)を用いて脳神経の形態や機能の定量的評価方法の確立を目指しています。またその疾患評価への臨床応用研究についても取り組んでいます。
近江 雅人 (教授)	■医用光学 ■生体計測学	光を用いた高分解能断層イメージング手法(OCT)を開発し、生体の構造や機能をミクロに計測・分析する研究を行っています。これをもとに臨床現場で利用できる新たな光診断法を開発を目指しています。
齋藤 茂芳 (准教授)	■先端画像技術学 ■磁気共鳴医学 ■診療放射線技術学	前臨床用超高磁場7T-MRI、前臨床用永久磁石1.5T-MRI、マイクロCTなどを用いて、診療放射線技術学や磁気共鳴医学における先端的な画像診断技術の開発を行い、脳・肺・心臓・肝臓などの疾患評価、その病態解明を目指します。
鎌田 佳宏 (教授)	■病態超音波医学 ■消化器疾患の診断法・治療法開発 ■消化器疾患の病態解明	消化器疾患の診断のための非侵襲的診断法(noninvasive test: NIT)開発のための基礎的・臨床的研究を推進しています。NITのツールとして超音波検査装置、血液バイオマーカーを用いて新たな消化器疾患NIT・治療法開発を目指しています。
木村 敦臣 (准教授)	■磁気共鳴 ■同位体動態学	磁気共鳴イメージング(MRI)および磁気共鳴分光法(MRS)の基本手法の開発として、高感度化・高機能化を目指し、MRI/MRSシステムの開発・改良を行っています。また、その応用として、診断薬や治療薬の開発に有効な生体評価システムの構築および機能評価のための新規指標の提案に取り組んでいます。
石田 隆行 (教授)	■医用画像工学 ■診療放射線技術学	高度な画像診断を支援するための新しい画像処理法や定量解析法を開発しています。また、医用画像の画質評価に関する研究も行っています。

検査技術科学専攻 教員名・専門・研究テーマ

基礎生体情報学

名 前	専 門	研究テーマ
戸邊 亨 (教授)	■微生物学	感染症の原因となる病原細菌が、ヒトに感染し発症するメカニズムの解明、およびその知見に基づく感染防御法の開発を目指して研究を行っています。
木原 進士 (教授)	■動脈硬化学	メタボリックシンドロームによる心筋梗塞や脳卒中を予防するため、脂肪組織分泌因子とその結合蛋白に基づいた、新たな診断法の開発を目指して研究を行っています。
高橋 正紀 (教授)	■神経生理学 ■臨床神経学	電気生理、生体磁気など生理学的手法を中心に遺伝学的手法なども用いて、神経・筋疾患、特に希少難治性疾患について基礎から臨床に至る幅広い研究を行っています。
山本 浩靖 (准教授)	■糖尿病 ■内分泌代謝学	世界的にも増加する糖尿病、脂質異常症等のメタボ関連疾患とその合併症の病態解明、診断法・治療法の開発を目指し、分子生物学的・細胞生物学的な研究を行っています。
久保田 智哉 (准教授)	■神経内科学 ■生物物理学	神経や筋に発現する電位依存性イオンチャネルの機能を、生物物理学的手法により解析し、遺伝性神経筋疾患の病態について、基礎と臨床の両方の電気生理学を通じた解明を目指しています。

病態生体情報学

名 前	専 門	研究テーマ
三善 英知 (教授)	■生化学 ■消化器内科学	糖鎖は第三の生命鎖とも呼ばれる重要な生体分子です。生化学的な手法を用いて糖鎖機能を解明するとともに新しい疾患マーカーや治療法を開発を目指しています。
山本 浩文 (教授)	■がんの診断・治療 ■消化器外科学	当研究室では、がんの形態と遺伝子についての研究を行っています。診断・治療への応用が目標です。
尾路 祐介 (教授)	■腫瘍学 ■腫瘍免疫学	白血病や様々ながんや働く「がん遺伝子WT1」の機能の研究、およびWT1を標的とした癌免疫療法や分子標的治療の開発を行っています。
辻川 元一 (教授)	■再生発生医学 ■分子遺伝学	私たちの教室では再生医学の基礎的な研究と実際の臨床への応用を行っています。また、ゼブラフィッシュを使って、分子遺伝学的手法で神経病態研究も行っています。
渡邊 幹夫 (教授)	■臨床検査診断学 ■エピゲノム検査学	疾患の診断や予後予測のための新しい臨床検査法を開発するとともに、疾患の病因・病態や臨床検査値に及ぼす遺伝要因および環境要因の解析を行っています。
佐藤 茂 (准教授)	■分子遺伝学 ■眼科学	遺伝性網膜変性症の遺伝子診断や新規原因遺伝子の探索を行っており、遺伝子治療を含む新規治療法の開発を目指しています。
近藤 純平 (准教授)	■消化器病学 ■分子生物学	患者由来のがん細胞を3次元培養する技術を駆使し、癌の多様性解明～個別化医療への応用、また診断技術や治療法の開発などを目指しています。

各研究室のHPは、<http://sahswwww.med.osaka-u.ac.jp/jpn/departments/>からアクセスできます。

卒業生の声

看護学専攻

安全・安心な社会を支える保健師

多田 世奈(学部平成26年度卒業、修士平成28年度修了、京都市保健師)

地域での生活自体を支えたいという思いから保健師として就職しました。現在は母子保健を担当し、母子手帳交付や健診・訪問業務を通して妊娠、出産、育児をサポートしています。答えのない支援に悩む日々ですが、感謝の言葉をいただいたときや元気に成長する子ども達を見た時には本当に嬉しく感じます。大学で努力家な仲間達から刺激を受けつつ学んだことをフル活用しながら、保健師の楽しさを感じている今日この頃です。

母子と家庭の健康を支援する助産師

片岡 裕子(旧姓:毛穴)(学部平成23年度卒業、泉大津市立病院産婦人科病棟)

助産学実習先だった現在の病院では、分娩・産褥を中心に幅広い患者さんと関わっています。妊婦健診や1ヶ月健診、助産師外来も担当するため、様々な知識が必要です。母体搬送も受け入れており、24時間

体制で地域周産期を支えています。今は子育てと仕事に奮闘する日々で、スタッフからの理解と協力を得ながら両立できています。この仕事は大変なこともあります。やりがいが大きく、ずっと続けていきたいと思っています。

看護師の魅力

小原 侑子(学部平成25年度卒業、大阪大学医学部附属病院・循環器内科病棟)

就職先に迷い、いくつか施設見学しましたが、実習で熱心な学生指導や患者を第一に考えて看護する姿を見て阪大病院に決めました。私が働く循環器内科病棟では、主に重症心不全の患者が多いですが、消化器系や脳神経科など他の疾患を抱えている人も多く、循環器系以外のことも学べるのが特徴な1つです。現在4年目で、プリセプター(新人指導)や係のリーダーという役割を担っており、日々勉強ですが充実した生活を送っています。

放射線技術科学専攻

学生から教員へ

山本 浩一(平成14年度卒業)

放射線による診断や治療の質を向上させるために、診療放射線技師は物理や数学の知識を要求されます。

しかし、人体に放射線を照射する資格である以上、生命科学の点から人体を理解し、その上で知識を応用すべきと考えます。

私は学部・大学院の9年間「生命科学」に教育の根幹を置く、保健学科で勉強してきました。そのお陰で、保健学科で教員として研究や教育に携わることができたと実感しています。



私の夢は「将来この分野のリーダーを育てること」です。この夢を達成し、保健学科をますます発展させるため、皆さんが保健学科で勉強・研究できることを願っています。

臨床現場で活躍できる医学物理士になろう

中村 光宏(平成17年度卒業)

私は現在、京都大学医学部附属病院で医学物理士として勤務しています。

医学物理士の業務内容は、高精度放射線治療の計画立案、治療装置や関連機器の精度検証、患者さんに照射する放射線量の事前検証など、多岐にわたります。

近年、医学物理士数は増加していますが、「臨床現場で活躍できる

検査技術科学専攻

医療の基盤を支える臨床検査技師

井上 直哉(平成21年度卒業)

私は大学院修士課程を卒業して、大阪大学医学部附属病院で臨床検査技師として働いています。

臨床検査技師の知名度はあまり高くはありませんが、診断・治療・予防に必要な不可欠な患者さんの生体情報を測定する臨床検査業務を行う非常に重要な医療職です。

さらに阪大病院では、単に日々の臨床検査業務を行うだけでなく、臨床検査を発展させるための医学研究も行っており、博士号を取得して国内外の学会で活躍している臨床検査技師が10人以上います。

医師等の他の医療職からの信頼も厚く、大変やりがいのある職業です。

私はまだまだ未熟ですが、早く先輩のような大阪大学の高度先進医療

の推進に貢献できる存在になりたいと思い日々頑張っています。

高校生のみなさんへ

石黒 智子(平成18年度卒業)

私は今食品会社の研究所で働いています。大学時代は毎日実習があり、提出レポートに追われる日々でした。その中で、部活やバイトにも励み、大学生活を満喫していました。大学に入学した当初は病院勤務を希望していましたが、大学生活の中で研究の楽しさを実感し、大学院へ



生徒の学校生活を支える養護教諭

松岡彩世子(学部平成21年度卒業、同志社香里中学校・高等学校)

看護師として臨床経験を経たのちに養護教諭となりました。応急処置だけでなく、健康診断や保健指導などを通して生徒の健康を守る仕事です。慢性疾患や思春期に好発する疾患をもつ生徒の学校生活をサポートしたり、心の悩みを抱える生徒にはスクールカウンセラーと連携して対応しています。幅広い知識が必要ですが、看護師や助産師、保健師として活躍している大学時代の友人とお互いの話をする事で勉強にも励まされています。

臨床とは別の視点で保健医療をとらえるしごと

澤田 想野(学部平成26年度卒業、修士平成28年度修了、独立行政法人医薬品医療機器総合機構 医療情報活用部)

学士と修士で計6年間在籍していました。大学院では量的研究に取り組み、今は医薬品の安全性監視のため大規模データを解析する

仕事に就いています。健康維持・回復・増進という目的は同じですが、現場で患者を看ることとは異なる視点で保健医療を捉えることができ、この分野の奥深さ・幅広さを再認識しつつ、日々の仕事に取り組んでいます。

「国民全体の利益」を考えた情報提供

堀 芽久美(学部平成20年度卒業、修士平成22年度修了、博士平成25年度修了 国立がん研究センターがん対策情報センターがん統計・総合解析研究部、職位:研究員)

一年間にがんと診断される人数は?一生のうちにがんと診断される確率は?わたしはこのようながん対策に役立つ情報、国民が知りたい情報を発信する仕事をしています。また、がんに関する現状把握・リスク評価・治療効果の研究も仕事の一つです。「国民全体の利益」という視点で取り組む研究と情報発信。臨床とは別の立場で日本の医療、保健・福祉を支える仕事として興味を持っていただけると嬉しいです。

医学物理士」数はまだまだ不足しています。

「臨床現場で活躍できる医学物理士」になるためには、知識と経験が必要です。皆さんも、まずは保健学科で確固たる知識を付けて、「臨床現場で活躍できる医学物理士」になりませんか?



企業就職を選んで

齊藤 奨(平成20年度卒業)

私は大学院卒業後、企業就職を選びました。病院経営の支援に携っており、個々の病院の経営再建だけでなく、より良い医療を受けられるような社会システムの構築を行っています。

大学での講義には放射線の分野だけでなく、医療情報や経営学など医療に関わる様々なカリキュラムがあり、このような教育環境のおかげで違った視点で医療と向き合う事を学びました。進学するにあたって、今は医療に携わりたいたいという漠然とした理由でもいいと思います。私もそうでしたが、保健学科には自分の道を見つけられる環境が備わっています。

皆さんの中から日本の医療を共に良くする仲間が出てくる事を楽しみにしています。

進学後、研究所に就職しました。

私の現在の仕事は、品質保証に関わる新規分析技術の開発です。大学時代に学んだ検査技術を応用して、新しい技術を立ち上げる事が多いので、大学時代の経験が大変役に立っています。新しい技術を学ぶ機会も多いですが、大学時代の基礎のおかげで研究の幅も広がり、大阪大学保健学科を卒業してよかったと思っています。

高校生の皆さん、こんにちは。

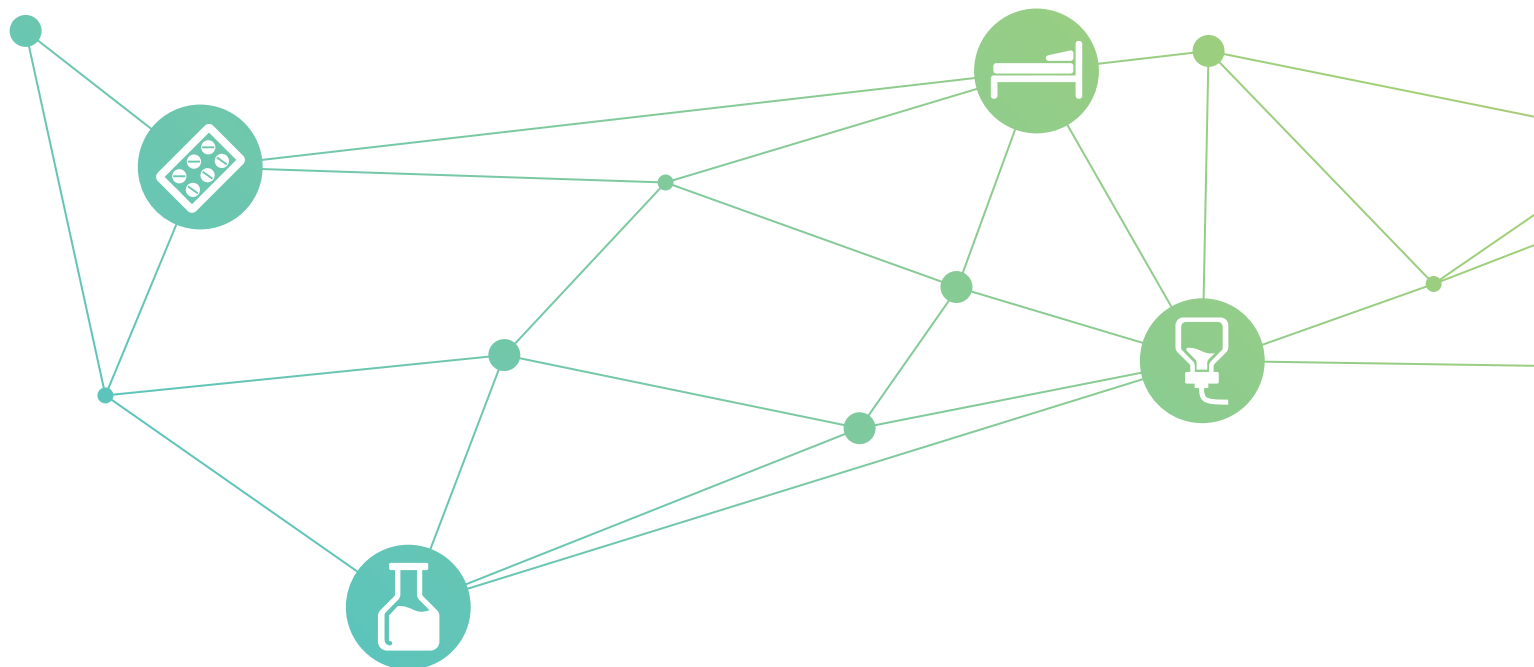
勝間 鈴華(平成19年度卒業)

19年度に大阪大学大学院医学系研究科分子微生物学研究室を卒業しました勝間鈴華です。卒業後はアステラス製薬株式会社に就職し、臨床開発業務に携わっております。

私は大学受験時、臨床検査を通じて医療に貢献したいという気持ちから保健学科の検査専攻を受験したのですが、大学で医学や検査学について幅広く学ぶ中で、病気の治療において重要な役割を担う薬作りに携わりたいと思うようになり現進路を選択しました。

臨床検査からは離れましたが、検査専攻で学んだ医学・検査学の知識は臨床開発の業務においても非常に役立っています。





大阪大学
OSAKA UNIVERSITY

**大阪大学医学部保健学科
大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻**

〒565-0871 大阪府吹田市山田丘1-7

TEL.06-6879-2511~2513

FAX.06-6879-2629

<http://sahswww.med.osaka-u.ac.jp/jpn/index.html>